

# 日越経済交流の懸け橋築く



ジェトロ茨城  
西川壮太郎所長

関彰商事  
関 正樹社長



関彰商事が成長著しいベトナムにハノイ駐在員事務所を開設して1年が経過した。この間、セキショウグループで人材派遣や教育事業、就職支援事業を担うセキショウキャリアプラスがベトナム人学生と県内企業のマッチングを図る「ジョブフェア」(SEKISHO JOB FAIR)を現地企業と提携して開催。さらに現地大学と協定を締結するなど、茨城―ベトナム経済

交流の懸け橋となる事業に乗り出した。交流の広まり、深まりが今後も予想される中、同社の関正樹社長と企業の海外進出を後押ししている日本貿易振興機構(ジェトロ)茨城貿易情報センターの西川壮太郎所長に、こうした取り組みの意義や今後の可能性について語り合ってもらった。

(聞き手・渡辺勝茨城新聞社筑西支社長)

## 対談 ベトナム進出の意義と可能性

### ハノイ事務所開設の狙い

「昨年7月にハノイ駐在員事務所を開設しましたが、開設にはどういった狙いがあったのでしょうか。」

関 きっかけは2014年10月、橋本昌知事を団長とする茨城県ベトナム訪問団(総勢106人)に西川所長と共に同行させていただいたこと。ベトナムの熱気、活気に触れることができました。それまで弊社の事業は国内のみで展開していましたが、帰国して社員たちには「既成概念にとらわれない取り組み」を指示しました。その後、何度か東南アジアへ出向いた社員らが「人材事業にニーズがある」という感触をつかんだのです。

駐在員事務所の開設に当たっては、ジェトロさんの「2015年度サービス産業個別企業支援事業」に採択され、レンタルオフィスや現地商工会の紹介、各種手続きなどで手厚い支援をいただきました。西川所長には大変お世話になりました。また、事務所の開設地選定などについては常陽銀行市場国際部さんからも貴重なアドバイスをいただきました。

橋本知事の訪問団に加わったこと、西川所長に出会えたこと、また、弊社の一番の取引先であるJXTGエネルギーさんが当時ベトナムに大きな投資をしていたこと、さらに、県庁国際課さんと共に座長として「いばらきグローバル化推進計画」策定に関わり、

### 日越大学と協定 優秀学生に奨学金

「日本・ベトナム両国政府が設立した日越大学(ハノイ)と関彰商事が今年2月締結した協定の内容についてもお答えください。」

関 日越大学は「ベトナム人学生がベトナムにいらがらに日本に留学できる」とされる大学です。協定は両国の歴史や教育文化を尊重しながら発展を創出していくことが目的で、具体的には弊社から優秀な学生に奨学金を支給し、インターンシップで受け入れることが一つ。もう一つは、弊社の社員に対し大学側から教育研修プログラムを提供してもらうこと。近く、社員を駐在員事務所に派遣し、プログラムを受けさせたいと考えています。

―本県とベトナムの経済交流にとってジョブフェアや日越大学との協定の意義をどうご覧になっていますか。

西川 今後、両国間、あるいは地域間の経済交流の広がりや深化によってポトルネックになるのが人材不足です。これをいかに解消するか、特に優秀なベトナム人をどう確保するかが大きな課題です。

私の経験則から申し上げれば、ベトナムに出張者の最も多いのがベトナム

因が偶然重なり、とんとん拍子で進んだという感じです。人材交流や海外進出などで地域経済のグローバル化はますます進むと思います。駐在員事務所はベトナムでの事業展開の拠点として、また社員らが異文化や多様な価値観に触れる場として活用していきたいと考えております。

西川 日越大学は現在、約2千社の日本企業が進出しています。ジェトロは世界各地に事務所を置いていますが、私が駐在していた当時、日本人の海外出張者の最も多いのがベトナム



ベトナムでは昨年から公立小中学校で日本語教育を始めました。高校や大学で日本語を教えるのは非常に珍しい。それほど親日国なのです。そうしたベトナムの上には3年前の茨城県訪問団のPRが功を奏し、ベトナムでの「IBARAKI」の知名度は他県に先んじています。牛肉などの農産物のブランド力は日本国内よりも高いかもしれません。下妻の梨が今夏からベトナムに輸出されており、現地マーケットを席巻するでしょう。農業に限らず、ほかの産業でもこうした茨城のブランド力、他県に先んじたアドバンテージを生かさない手はないと思います。

### ベトナム人学生 日本に熱い視線

「「ジョブフェア」の開催状況についてお聞かせください。」

関 ベトナムの大学は入学、卒業の時期が日本と異なることから、5月と11月に学生の就職熱が高まります。ジョブフェアは現地企業と提携し、昨年11月と今年5月にハノイ工科大学を会場に開催しました。また、今年11月4、5日に同じハノイ工科大学で3度目のフェアを開催する予定で目下、出展企業を募集しています。ベトナム人学生の日本企業に対する就職熱はものすごいものがあります。県内の企業にもその熱気を肌で感じてほしい。ぜひとも多くの企業に参加していただきたいですね。

西川 学生の留学希望者は多くの国で通常はアメリカの人数が高くなるのですが、ベトナムの場合は日本です。日本に行きたいという学生が多い。必然的に日本の企業に就職したいという学生が多くなるわけです。

関 弊社でも昨年11月のフェアに参加したハノイ工科大学出身の男子1人、女子1人を採用し、9月に入社します。システムエンジニア、企画担当として活躍を期待しています。

④ベトナム人学生らで「きわむセキショウ・ジョブフェア」ベトナム人学生に会社説明をする日本企業 2016年11月、ベトナム・ハノイ工科大学

### 現地法人設立 新事業に挑戦

「ベトナムでの事業展開の将来像についてお聞かせください。」

関 これまで弊社が培ってきたことが国内だけでなく、ベトナムでも通用するか試してみたいと思っています。弊社はさまざまな分野で事業を行っています。一つの部門だけで完結できるという仕事はない。自動車部門がハノイで何ができるか、エネルギー部門がベトナムでどんなことができるか、企業としての視野を広げていきたい。

―ベトナムへの進出は大手のみならず、中小企業にも及んでおり、進出先はハノイやホーチミンなど大都市ばかりでなく地方にも広がっているように見えます。

西川 ベトナム駐在当初は中堅以上の企業に製造拠点となる工業団地を紹介するようなケースが多かったのですが、次第に進出企業の業種が製造業からサービス業にシフトし、日本食レストランをつくりたいという方が多くなってきました。企業規模もどちらか

## ベトナムで合同企業説明・面接会 11月4、5日

セキショウキャリアプラス(つくば市東新井、関太士社長)は11月4、5両日、ベトナム・ハノイの国立ハノイ工科大学で、ベトナム人学生を対象とした日本企業との合同企業説明・面接会「セキショウジョブフェア」を現地企業と提携して開催。日本企業が優秀なベトナム人学生を獲得するチャンスを提供する。

同フェアは、日本企業で就労を希望するベトナム人学生と企業をマッチングするとともに、企業の人材不足解消や同国での事業展開を後押ししようと昨年初めて開催。同大や近隣大学から延べ690人の学生

が参加し、参加企業の採用予定人数に対する内定率は86%に上った。今年のジョブフェアも企業説明会と面接会を2日間にわたって開き、採用・内定に直結できるよう支援する。

出展料は、会場利用や学生への広報、資料の翻訳などで30万円(税抜き)。専属通訳などのオプションもある。募集企業は最大20社を予定している。問い合わせは同社☎029(860)5080。

これまでのジョブフェアに出展した企業からは、ベトナムの優秀な人材に接触する貴重な機会になったと

評価する声が聞かれた。

地盤コンサルタント業、アルク(水戸市)の神山健さんは「面接には100人近く集まり、会社説明も反応が良かった」と振り返る。2人を採用、うち1人が日本に渡る準備を終え、近く働き始める予定という。

資源循環管理システム開発のエジソン(つくば市)の人事担当、波多野崇さんは「ベトナム人学生からは日本で働きたいという大きな熱量を感じた。また現地で面接も同時に行うことができ、効率が良かった」と感想を述べた。多数の応募の中から2人を採用予定者として



現在検討を進めているという。常陽銀行は「取引先の海外での事業展開の支援を推進しており、ベトナムも対象国の一つのため、今後の支援業務の可能性を図るため出展した。今回は採用には至っていないが、外国人材の採用は引き続き検討していく」としている。